

新年明けましておめでとうございます

旧年中は関係者各位様の数々のご尽力を賜り、無事起工させて頂くことができました。本年は、いよいよ進水、竣工に向け引き続き役員一同邁進する所存でございます。

本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

本年の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

瀬戸内中央汽船株式会社 取締役一同

## 12月1日 於 福岡市 船員就業フェアに参加しました

勿論、海嶺の竣工は本年7月予定、又艀装員として雇用するとしても、最短で本年4月頃となりますので、その場で即採用云々という訳には参りませんし、今回は、様子見と会社PRということが目的でした。会場は想定していたよりも盛況で、時間前に開場するといった状況となりました。と申しますのも、長崎県口之津海技技術専門学校の生徒さんや、福岡県、長崎県、山口県の水産高校、下関水産大学の学生さんがその殆どで、しかも3年生は既に全員内定とのことで、2年生が中心で、進路指導の先生が引率されていましたので、半ば、本格的な就職活動の前の社会勉強会、且つ先方も様子見的な雰囲気でした。

しかし、会社PRとしては、ある程度の成果は感じられるものでありました。引率の先生から課題として言われているのでしょうか、『何かご質問は有りますか?』との問いに、殆どの方が「御社の求める人材とはどのような人材ですか?」という質問が来て、ちょっと戸惑いましたが、次のように回答致しました。

1. 勿論即戦力、上級職員が最も欲しい人材ではあるが、昇格意欲が有り、長く勤める意志のある人であれば、未経験者でも構わない
1. 今後内航海運のプロフェッショナルとなることを希望する人



(余談です)

玉砕覚悟で臨んだわりには、結構な人数が当社のブースに集まり、某大手海運会社のブースより盛況でした。知名度も実績もない会社ですが……………ロゴマークが良かったのかもしれませんが。又は、社名がフェリー会社のように見えたのかも。

## 12月12日 総括建造打合せを実施しました

12月12日大晃機械工業(株)殿研修センターにおいて、現段階での総括としての建造打合せを戸松殿と実施致しました。予想通り、竣工までの打合せ等々で、旅費が費用全体の殆どであります。中谷造船や広島方面への出張の際は、自家用車に乗り合わせて行く等経費節減に努力しておりますが、今後建造監督等大詰めになるに伴い、益々負担が増すことが予想されます。という訳でUSアカデミー安全監督者研修会の間を利用しての実施となるようご配慮頂きました。

尚、続いて12月19日台場、12月25日中谷造船にても開催致しました。今後も、営業ご担当者殿、環境安全G.殿も交え、継続して建造打合せをさせて頂く所存です。

### \*\*\* 内航海運協業化の課題に関するご意見募集について \*\*\*

内航海運業の協業化は、今日俄かに議論され始めた問題ではありません。それでは今日の状況になるまで、何故進展しなかったのか又、今後何が協業化にとって必要なかを模索していきたいと考えます。

多方面からいろいろな意見を頂戴することは、瀬戸内中央汽船としての今後の運営上の問題点を認識することでもあります。趣旨をご理解頂き、株主の皆様におかれましては、ご意見等、メール頂ければ幸いです。

[info@setochu.com](mailto:info@setochu.com)

### 内航海運と内航船員の理解度と知名度

過日の船員就業フェアの様子についてももう少し加筆させて頂くことで、この問題について考えたいと思います。その大多数が海員学校等の学生で、又、学生以外であっても、やはりフェリー趣向の方が多く、一般商船に乗船経験がない方が殆どであったので、尚更強く感じたことかもしれませんが、やはり内航海運業界とそれに従事する内航船員の職務内容に対する理解度というか知名度が、極めて低いという感否めませんでした。

まず内航船舶がどのような航海をするのか、船内の居住環境、就労状況を含む労働環境がどのようになっているのか、いろいろと話をする前に、まずその説明から始めなければなりません。即戦力とは言えなくとも、ある程度内航海運についての知識がある方が来られるものと考えていましたので、それらの資料まで用意してきておらず、やむを得ず手書きで製油所から油槽所、需要家等への海上輸送状況、航海当直体制を含む大まかな作業体制を図に書いて説明し、余計でしたが、内航タンカー以外のセメントタンカーや一般鋼材貨物船等々の海上輸送状況についても説明する事態に陥ってしまいました。そして時間の関係上結局は“口頭で説明するよりは、乗船してみないと分からない部分もたくさんありますけど”というお決まりの説明でおわってしまいました。

現在まで、多くの業界関係者のご尽力により、内航海運業界と乗組員の労働環境については、相当のアピールをされてきた筈なのに、何故未だに浸透していないのか不思議に感じます。その反面、悪い印象というのは一人歩きするもので、“タンカーは残業時間が多くて大変みたいだ”、“タンカーは危険物取扱責任者とか海技免状以外のたくさんの資格がいるから大変だ”という話が出できました。そこで反論で“たしかにタンカーには荷役作業という残業時間になる可能性がある作業が付き纏うけど、今それがないように荷役作業を省力化できるような技術開発が進展しているし、他の船種にも当然残業はあるものだと思う”“資格がたくさんいるのではなくて、上級職員になろうとするなら危険物取扱責任者の資格がのみ必要なものであって、又これを直ぐに取得するような要請を会社からすることはないし、取得するにしてもそんなに時間を要するものではない”という説明をすると取り合えずは納得しているようでしたが、果たしてどれほどイメージを払拭できたものか……………。

又、もう一つの問題として、学生以外の 30 歳以降位の年齢層の方で、船員として就職したいという熱意は強もった方が残念なことに、航海当直部員の資格を持っておらず、その資格についての理解もしていないという実情もありました。

船員確保の為の業界全体のアピールについては、当社は勿論ですが、業界全体としてももう少し考える余地がありそうです。

### 建造状況報告①

12月25日 中谷造船のブロック建造状況、搭載状況の確認に参りました。年明早々(1月7日からの週)より要所でのブロックの確認の為、交代で常駐致します。若干当初の工程より遅れも見られますが、大幅な変更は現在のところない予定です。次回より、いよいよ写真付で出来る限り詳細にご報告申し上げます。

#### \*\*\*今後の予定\*\*\*

1. 1月7日以降～随時工務監督
2. 1月31日 主機工場試運転 \*予定が何度か変更されましたが正式に決定致しました。

#### \*\*\*お知らせ\*\*\*

##### 1. S.No.613 建造見学会について

先月号において、1月中には開催の旨ご連絡申し上げましたが、未だ確実な工程が定まっていない状況ですので確定次第ご連絡申し上げますので宜しくお願い申し上げます。

##### 2. 船名について

船名は上野善社長様のご承認を得て「海嶺」に正式に決定させて頂きましたが、やはり進水式における命名式までの間の建造打合せ、関係各所の申請等に関しましては、S.No.613として統一する方が良い旨、戸松殿よりアドバイスを頂きました。と申しますのもやはりこれは「はじめ」というか船舶を建造する際の定石とも言えるもので、私達も初めての経験でありますので、尚更それらを重んじたいと考えております。従いまして、公式には進水式の無事終了まで、S.No.613として統一したいと思いますので宜しくお願い申し上げます。

### 編集後記

花田です。改めて新年あけましておめでとうございます。

S. No. 613(海嶺)の進水まで4ヶ月となり、建造工務監督、船員確保、ISM取得準備、Major検船準備と年始より忙しくなります。1月初旬には中谷造船からのS. No. 613の最新の工程表を確認し、進水までに建造状況の見学会を行いたいと思います。是非参加してご意見を頂き、可能な限りすばらしい船にしたいと思います。今後とも役員一同全力で努力していきますので本年も何卒宜しくお願いいたします。今回は末田常務です。